

舞台メンバーから研修生へ

目の前にいる研修生はかつての自分の姿。先輩たちが語りかける言葉には、研修所を経てそれぞれが試行錯誤の末に見つけたことへの実感が込められています。

ともに舞台に立つ日のために。研修生諸君へ。



上達に必要な五つのこと

辻勝

僕は『上達』に必要なものとして、次の五項目を大事にしています。

一、自分自身がどれだけの理想を掲げているか

理想に近づき、それを達成する事が大切なのではなく理想を持ち続けることが重要と考えます。

二、自分に欠けていることをより多く見つける力

自身に欠けていることを見つけ、それを補う稽古や勉強をする。百パーセントの人間なんていないと思うし、自分に欠けていることは、探せばどんどん出て来るはず。それを見つけないこと、イコールレベルアップにつながると考えます。

三、自分自身を信じる

「自分にはこれは出来ない」などと自分の力を決めつけず稽古に取り組むこと、それがすぐ出来るようになるに越したことはないが、出来た出来ないよりも、そこに自分を信じて全力で取り組むことが大事。

四、常に自然体でいること

自然体でいることで自分の長所短所が見えやすくなる。自分の本質を知ること、探ることが大事。全ては普段の過ごし方であるから。

五、常に新鮮な心でいること

自分自身の固定概念などにとらわれず、毎日の生活の中でも稽古の中でも、常にフレッシュな気持ちで物事に挑むことで新しい発見や出会いがある。

以上のことを全て研修生に伝えるということはとても難しいです。指導の内容によつては、「これは言葉にしてはいけない」という事もありますし、結局のところ『実感』というのは本人の中でしか感じられないことだから、その人が一歩踏み出そうとする瞬間を見逃さないことが大事で、その時にボンと背中を押してあげることが、僕が現時点で描く理想の『指導』かなど、そう思います。

本当に『必要』になる時が来る

船橋裕一郎

私は、今年の春、約二か月間、研修生へ太鼓の指導を行いました。久々にツアーを離れ、研修所を卒業後、初めてじっくりと研修生と向き合いました。時に寝食を共にしながら、入所したての一年生、後輩ができたての二年生をなだめたり、怒ったりしながらの日々は、自分と改めて向き合うことにもなり、勉強になりました。

なにかを会得するのは、自分自身が本当にそのものを『必要』としたときです。研



修所の生活を含めたカリキュラムは、鬼太鼓座から鼓童となり四〇年を経て、多くの先輩が鼓童の舞台、また人間形成に『必要』だとの思いから、とりいれられたカリキュラムです。しかし彼らは、太鼓以外にある多くの稽古や作業に日々追われます。私もそうだったように、それら全てが太鼓や舞台に『必要』だと気づくには、卒業後、何年かしてからになるかもしれません。

それでも気持ちをニュートラルにして、何も考えずに吸収しておくといつか『必要』を感じたときの力になります。だから、今は目の前のことを一所懸命に取り組んで欲しいと思っています。簡単に言えば馬鹿になれということかもしれません。

十数年前、私たちは、半ば強制でしたが、自分達が根柢なく『必要』だと思いこみ、真冬でも上半身裸で走りました。体力や精神力はもちろんですが、寒さや暖かさや痛みを、日々の自然の変化を通し、直接自分の皮膚から得られたことは、今でも自分自身の力になっていると思っています。